

兵庫県こころのケアセンター 平成25年度実施分に係る

外部評価委員会 業績評価（総合評価）

所 見

- ・ ト라우マ・PTSDに関する専門的な相談・診療、教育研修・研究機関として、10年が経過し、精力的な活動展開と運営努力により、独自の役割機能に関する全国的な認知の広がりや積極的な活用の好循環を生み出している。
- ・ 研修事業については、講座の内容や実施回数が多いのにもかかわらず、安定して多数の受講実績につながっており、参加者は県内にとどまらず、他府県からの参加者がいること、研修満足度が高いことが評価できる。「子どものこころのケア」に関する「子どものトラウマへのケア」、「子ども虐待をめぐる保護者への支援」の新設と災害復興期の回復をささえるこころのケアのため「サイコロジカル・リカバリースキル」の講座はセンターの特色ある研修として、今後も継続することを期待する。

また、ヒューマンケアカレッジ事業では、音楽療法士の養成と認定及び音楽療法の新規導入施設の開拓を行っていることは評価できる。基礎講座の受講者数は定員を上回り、目標数を達成しているとともに、受講者からも高い評価を得ている。
- ・ 「情報の発信」では、「DVによって傷つく子どものこころ」をテーマとしたシンポジウムの開催により、研究員がこれまで蓄積してきた研究成果について情報発信する場となり、参加者から高い評価を得ている。また、ホームページに関しては、内容の充実を図ったことでアクセスが増加したことをみれば、多くの人たちに活用され、貴重な社会貢献を果たしたといえる。今後とも各地での支援活動状況を紹介するパネル展示を順次更新していくとともに、本年12月1日開催予定の「こころのケア国際シンポジウム」等を通じた更なる情報発信を期待する。
- ・ 連携・交流事業については、当該中期計画中に発生した東日本大震災について、継続的に支援者支援を実施しているとともに、国内に止まらず四川大震災の被災地等での支援活動は、現地にこころのケアの必要性と方法を普及させる契機となり、現地NGOにより継続されることとなっており、期待される効果をあげたものと評価する。平成25年度においては、宝塚市役所庁舎火災事件後の時宜を得た支援が特筆できる。
- ・ 相談・診療事業については、トラウマ・PTSDに関連した相談・診療件数が増えており、当センターの特色が認知され、その役割が一層充実する方向にあると思われる。
- ・ 児童精神科医の活躍によって児童トラウマの治療が充実するというような面に現れているように、当センターの先進的な活動は、職員の熱意に支えられているところが大きいと考えられる。今後とも「当センターにしかできないこと」を中心とした事業展開が期待されるが、そのためには、設置者である兵庫県による財政及び人員の措置に関する、特段の配慮が望まれる。